

良質茎の早期確保・過剰生育を抑制し、高品質・良食味で安定収量の阿賀野市産米を作りましょう。

1 基 肥

- ◎高品質・良食味米生産のためには、土壌条件にあった施肥量で適正な生育量を確保しましょう。
- ◎基肥は水稻の栄養生長量を確保するために施用しますが、多用は過剰生育を招き、倒伏の原因となるので、適正な窒素濃度を有効分げつ終止期が過ぎる頃まで維持し、必要な良質茎を得るようにしましょう。
- ◎有機質肥料は肥効が緩やかなので、初期生育確保のためにも、べんとう肥を施用しましょう。

2 ほ場の均平・代かき

- ◎ほ場の高低差が大きいと稲の生育が不均一となります。高品質・安定多収のために、可能な限り整地しましょう。
- ◎水持ちの悪いほ場は、丁寧に代かきを行いましょう。 ※「練りすぎ」に注意。

3 田 植 え

- ◎出穂期～登熟期の高温登熟を回避するため、連休後半の5月5日以降(目標は5月10日以降)に移植しましょう。また、出穂後の積算温度を確保し品質を下げないためにも、5月20日頃までに田植えを終えるようにしましょう。 ※多収性品種(早生)－早植えで早期分げつを確保 ・ 多収性品種(晩生)－遅植えせず成熟期を早める。
- ◎田植えは2.0～2.4葉までの健苗を好天の日に行いましょう。(プール育苗は植え痛みしやすいので注意する。) ※老化苗を移植すると活着が遅く、低温時では初期分げつの発生が劣る。
- ◎穂数の安定確保・過繁茂、細茎化を防ぐため栽植密度は50～60株/坪(15箱/50株、18箱/60株=10a箱数)。 ※高地力田や大豆跡田の生育過剰傾向の水田や、常強風地帯など茎数が確保しにくい地域は栽植密度を調整する。
- ◎植付深さは2～3cmとし初期分げつを促進させましょう。 ※浅植え－葉害、浮き苗。 深植え－分げつ抑制。
- ◎補植は、基本的には行わず、連続欠株とまくら地程度ですませましょう。補植後は苗を速やかに撤去しましょう。 ※いもち病の発生源になる恐れがあるため。

4 病 害 虫 防 除

- ★斑点米カメムシ類の発生防止対策を徹底しよう! 『3・2・1・0運動』
3週間おきに2回の一斉草刈りで、出穂後1回の地域一斉防除を徹底し、斑点米0(ゼロ)を目指しましょう!
※田植え後、農道・畦畔のこまめな除草を実施。
※多年生雑草が優占している休耕田は適切な除草を行う。また、殺虫剤などでカメムシ類等対策に努めましょう。

◎水稻育苗箱施用剤の種類と対象病害虫

区 分	薬 剤 名 (○数字は農薬成分数) (一は化学合成農薬ゼロ)	対 象 病 害 虫					
		いもち病	穂枯れ (もみ枯細菌)	紋枯病	イネド ロ オウムシ	イネミ ズ ゾウムシ	ニカメイチュウ
殺 虫 剤	① フェルテラ箱粒剤				○	○	○
	一ゼロカウント箱粒剤				○	○(幼虫)	○
	① ワンリード箱粒剤				○	○	
殺 菌 ・ 殺 虫 剤	② ツインターボ箱粒剤	○	○		○	○	
	③ エパーゴルフオルテ箱粒剤	○		○	○	○	

5 除 草 体 系 ※除草体系は裏面に記載しております。

6 初 期 の 水 管 理 (効果:良質茎の早期確保)

- ◎田植え後活着するまでは、やや深水(3～4cm)の保温的な水管理をし、低温や風による植え痛みを防ぎましょう。
- ◎活着後はやや浅水(2～3cm)とし、水温の上昇を図り分げつの発生を促し、良質茎を早期に確保しましょう。
- ◎春雑草の生すき込み等により、ワキの発生が多いほ場については、夜干し・水の更新等を行いましょう。 ※水を更新する場合は早朝に灌水し、日中は止水とし水温の上昇を図る。
- ◎アオミドロの発生が多いと初期生育不良の原因となります。(有機物やチッソ、リン酸等が多い、水温が高まると発生) 効果のある除草剤の使用または、水の更新、落水により田面を軽く干すなどの対策で発生を抑えましょう。

7 中 干 し ・ 溝 切 り (効果:過剰生育の抑制)

- ・中干し・溝切りで生育を調整し、生育後期の稲体を健全に保ち登熟を良好にする。
- ◎移植後35日(目標穂数の80%確保。300本/㎡)で直ちに実施し、梅雨入り前に中干しを開始しましょう。 ※地力の高いほ場では、目標穂数の70%確保(270本/㎡)時に行ってください。
- ◎中干しの目安－小ヒビが入る程度。
- ◎出穂の1ヵ月前までに中干しを終了しましょう。 ※終了時期が生殖成長期以降となると根域が縮小し、高温年では品質が低下する恐れがあるため。
- ◎溝切り間隔－8～10条に1本、末端を排水路に接続、溝の深さは10cm以上を確保しましょう。

中 干 し ・ 溝 切 り の 効 果

- ① 無効茎の発生抑制による適正生育量の確保。
- ② 下位節間の伸長抑制による倒伏軽減。
- ③ 土壌への酸素供給による根の健全化。
- ④ 収穫時の機械作業が可能な地耐力の確保。
- ⑤ フェーン等の緊急時の迅速な灌水。
- ⑥ 秋の長雨による停滞水の容易な排水。

㎡当たり茎数早見表

田植機 株セット	1 株 の 平 均 茎 数					
	15本	16本	17本	18本	19本	20本
50株	227	242	258	273	288	303
60株	273	291	309	327	345	364

※カドミウム対策(湛水管理)を徹底するためにも適期中干しをしっかりと行ってください。

8 育 苗 後 の ハ ウ ス 利 用 (野菜等を栽培する場合の注意)

- ◎水稻育苗後のハウス内や育苗箱で野菜等を栽培する場合、水稻箱施用剤の使用については、ハウス内での散布や田植え後の育苗箱の使用は行わないで下さい。 ※水稻箱施用剤の使用成分は水稻以外の作物に使用登録が無いので、ハウス内で散布しますと残留農薬として検出される場合がありますので注意してください。



水 稻 除 草 剤 の 散 布 体 系 (例)

(※○数字は農薬成分数です)

	代かき後	-7日	田植移植	+5日	+10日	+15日	+20日	+25日	+30日
〈移植水稻〉									
【一発除草剤】									
・水持ちの良い水田 ・一年生雑草から多年生雑草まで効く			③ウィナー 1キロ粒・フロアブル・ジャンボ ③ベンケイ 1キロ粒 ③アツパレZ 1キロ粒 ③コメット 1キロ粒・顆粒	③ベンケイ 豆つぶ・ジャンボ ③アツパレZ フロアブル・ジャンボ ③コメット フロアブル・ジャンボ			※ベンケイ 豆つぶ・ジャンボは +3日目から散布可能 ※アツパレZ フロアブル・ジャンボは +3日目から散布可能 ※コメット フロアブル・ジャンボは +5日目から散布可能		
【初期剤＋一発剤】									
・水持ちの悪い水田 ・多年生雑草の多い水田 ・前年に一発剤のみで多発生したほ場	※田植移植前に除草剤を使用する場合は、7日前までに行いましょう。		①ソルネット 1キロ粒 ①メテオ 1キロ粒・フロアブル・ジャンボ ①ピラクロン1キロ・フロアブル・ジャンボ ②ショキニー フロアブル・豆つぶ ②クリアホープ フロアブル				③ウィナー 1キロ粒・フロアブル・ジャンボ ③ベンケイ 1キロ粒・豆つぶ・ジャンボ ③コメット 1キロ粒・顆粒・フロアブル・ジャンボ ③アツパレZ 1キロ粒・フロアブル・ジャンボ ②ボデーガードプロ 1キロ粒・フロアブル・ジャンボ		
【初期剤＋中期剤】									
・広葉・後発等の雑草が多発生するほ場は体系処理で対応			①ソルネット 1キロ粒 ①メテオ 1キロ粒・フロアブル・ジャンボ ①ピラクロン1キロ・フロアブル・ジャンボ ②ショキニー フロアブル・豆つぶ ②クリアホープ フロアブル				③イツソウ 1キロ粒 ③ナイスミドル 1キロ粒(※イネが4葉期以降～) ②ワイドショット 1キロ粒		

	代かき	播種	+5日	イネ1葉期	Ⅱ2.5葉期	Ⅱ3.5葉期	Ⅱ4葉期
〈直播水稻〉							
【初期剤＋一発剤】							
		②プレキープ 1キロ粒・フロアブル ①ピラクロン 1キロ粒・フロアブル			③イツソウ 1キロ粒 ②ボデーガードプロ 1キロ粒 ③ウィナー 1キロ粒・フロアブル・ジャンボ		

※播種時の代が柔らかすぎる場合は播種同時散布は行わない。

- ◎雑草は代かき時から発芽・生長し始めます。除草剤の効果がある時期を逃さないように適期に散布しましょう。
- ◎正しい使用方法で薬害防止と除草剤の効果を高め、初期生育の確保に努めましょう。

〈農薬使用上の注意事項〉 農薬の容器や包装ラベルに記載された「適用作物」「使用量・濃度」「使用時期」「使用回数」と「使用方法」を必ず使用前に一読し、適正に使いましょう。

◎水田にたっぷり水を入れ散布し、処理後は落水・掛け流しをしない。

- ・薬剤処理前にはネズミ穴などないように畦畔を補修し、水尻もしっかり止め、たっぷりの水(4~6cm)を保って散布します。湛水を維持しながら田面水を外に出さないような水管理を行ってください。また散布後は7日間は止水し、落水・かけ流しを避けてください。処理層をきっちり形成し、雑草に薬剤成分をうまく吸収させるためです。